

2025

10

October
No. 392

広報

みしま

福島県
大沼郡
三島町



三島町は、福島県の西部を流れる只見川沿いの小さな町です。優良な「会津桐」の産地として知られるほか、小正月の行事「サイノカミ」や、野山の材料で作る「編み組細工」などの伝統が受け継がれ、「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

9月25日に宮下ふれあい公園「びおたん」において行われた、「田んぼの学校 稲刈り」の様子。

曇り空で活動しやすい天候の下、三島小学校3～6年生、29名が、宮下びおたんクラブ、農業委員会、教育委員会の皆さんや学校の先生の指導を受けながら、元気に稲刈りを実施しました。

どの子どもも、笑顔いっぱい、次の活動で自分たちで育てたお米を食べられる時を楽しみにしていました。

令和6年度 決算

財政健全化

自治体の財政破たんを未然に防ぎ、財政状況の悪化した自治体に対して早期に健全化を促すために、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき「健全化判断比率」と「資金不足比率」の公表が義務付けられています。健全化判断比率の中で、一般財源の規模に対する公債費（借金の返済金）の割合を示す「実質公債費比率」が増加しています。実質公債費比率が18%を超えると、地方債を発行するために、総務大臣または県知事の許可が必要になります。

地方債は、地方公共団体が財政上必要とする資金を外部から調達するための重要な手段です。一般財源の不足を補完する機能を有しており、許可が得られなければ歳入予算の編成は極めて困難となります。

令和6年度は、公債費比率を下げるために、繰り上げ償還を行いました。その結果、単年度で10ポイント減少し、改善が見られましたが、依然として高い水準であるため、引き続き普通建設事業費の抑制が必要です。

健全化判断比率			
判断指標	令和5年度	令和6年度	早期健全化基準
実質赤字比率	赤字なし	赤字なし	15.0%
連結実質赤字比率	赤字なし	赤字なし	20.0%
実質公債費比率	12.7%	15.6%	25.0%
将来負担比率	—	5.5%	350.0%

※ 令和5年度の将来負担比率はマイナスとなり算定されないため「—」となります。

資金不足比率			
対象となる事業	令和5年度	令和6年度	経営健全化基準
簡易水道事業	78.2%	不足なし	20.0%
下水道事業	不足なし	不足なし	

※ 令和5年度は水道会計の公営企業会計への移行に伴い、打ち切り決算となったため、資金不足が発生しましたが、令和6年度は資金不足が発生していません。

町の一般会計と6つの特別会計の令和6年度決算が、町議会9月定例会で認定されました。一般会計で前年度と比較すると、歳入総額は5.8%減、歳出総額は9.0%減となりましたが、経常収支比率は9.9%増加し、109.2%となりました。

これは、経常的な収入だけでは経常的な経費を賄いきれず、臨時的な収入も充当していることを示しています。過去5年間で経常収支比率は増加傾向にあります。その要因は物価高騰により、燃料費、光熱費、消耗品費、通信運搬費、保険料、委託料などが軒並み上昇しており、これらの多くは、経常的に発生する性質のため、経常収支比率が上昇しています。

特に、令和6年度は豪雪の影響で除雪費用が増加したと、人事院勧告に伴い、人件費が増加したことが主な要因と考えています。経常収支比率の増加は、財政の硬直化が一層進んでいる結果といえるため、今後、経常的な経費の見直しと削減がこれまでに以上に必要です。

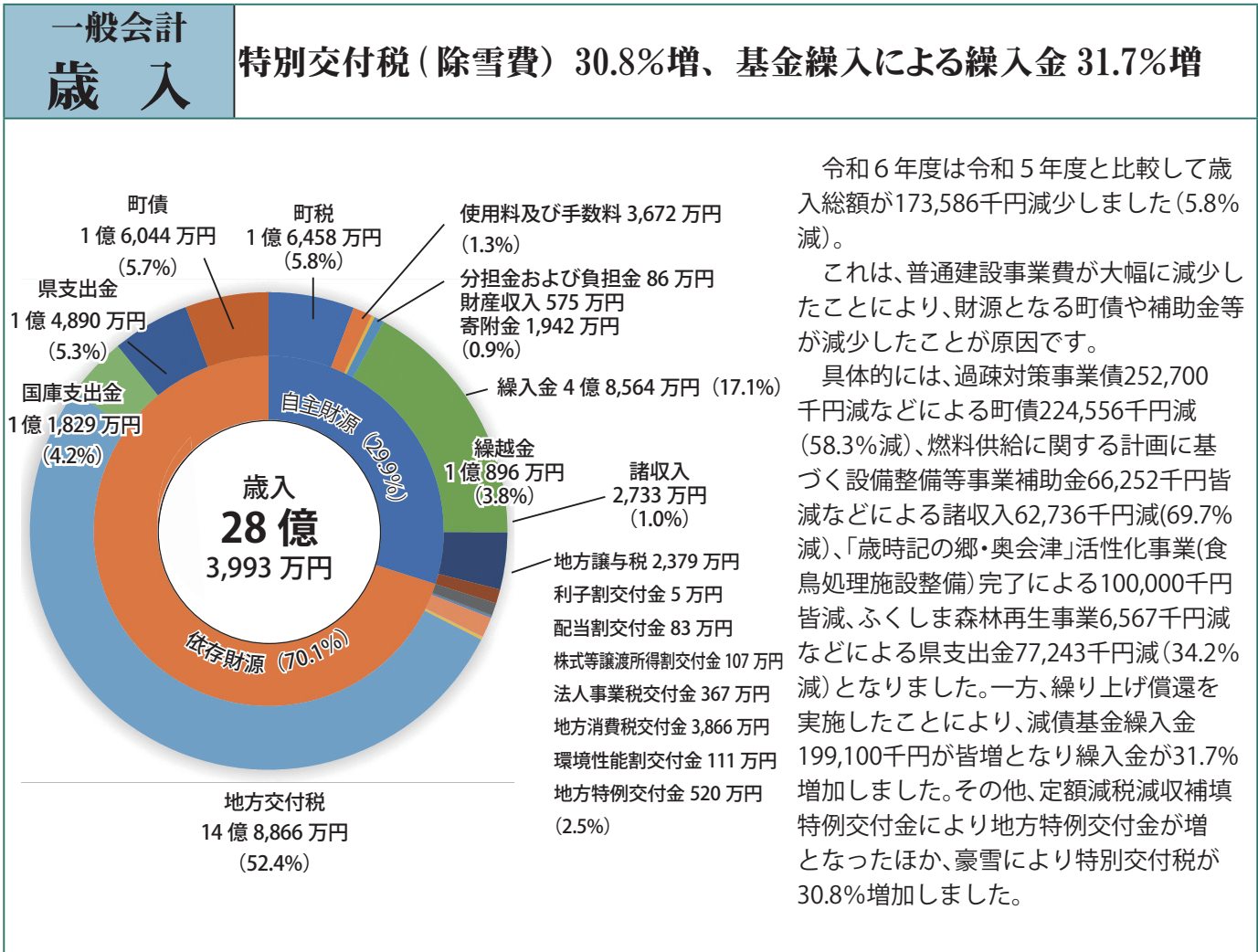
基金は「町の貯金」です。財政調整基金、各種特定目的基金と各種貸付基金である定額運用基金があります。近年は歳出に対して歳入が不足しているため、積立よりも取崩し額のほうが多く、基金の残高は減少傾向にあります。

令和6年度は財政調整基金のほか、公共施設整備基金、まちづくり基金など計4億4,127万円を取り崩し、基金残高は13億8,355万円となりました。

また、昨年度は、「実質公債費比率」の上昇を抑えるに、減債基金を取り崩し、繰り上げ償還を実施した結果、公債費比率の上昇を抑制しましたが、基金の残高が減少した影響で、将来負担比率が初めて発生しました。

基金種別	令和6年度末残高	増減
一般会計繰入が可能な基金の合計	11億4,433万円	▲4億3,927万円
財政調整基金	4億3,379万円	▲1億3,941万円
減債基金	3億391万円	▲1億9,908万円
その他の各種特定目的基金	4億663万円	▲1億78万円
国民健康保険基金	2,536万円	▲200万円
介護給付費準備基金	4,976万円	0円
定額運用基金	1億6,410万円	—
合計	13億8,355万円	▲4億4,127万円

令和6年度会計別決算額		
会計種別	歳出決算額	増減率
一般会計	26億4,303万円	▲9.0%
特別会計	国民健康保険	1億5,851万円 ▲1.4%
	路線バス	3,313万円 2.2%
	介護保険	3億8,116万円 ▲6.2%
	後期高齢者医療	3,834万円 7.1%
	簡易水道	1億3,483万円 ▲23.2%
	下水道	8,307万円 —
	合計	34億7,207万円 ▲9.9%



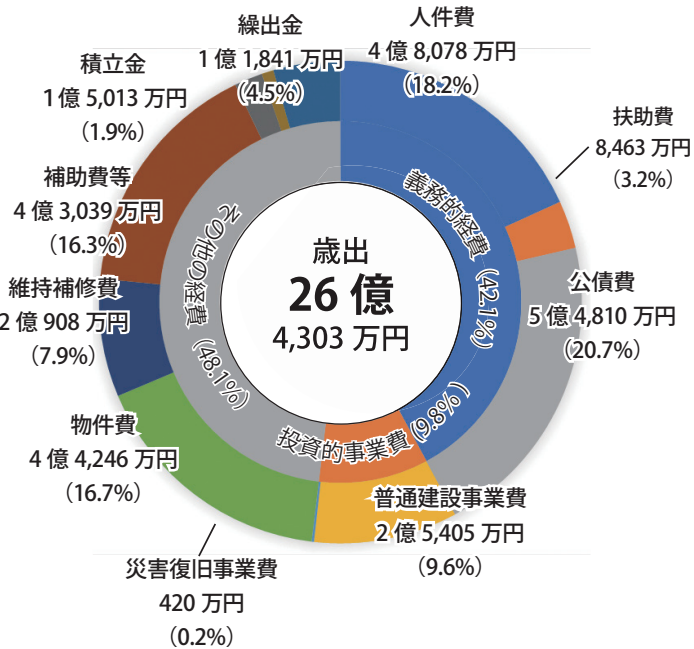
一般会計 歳出

豪雪対応による維持補修費 49.4%増、人事院勧告に伴う給与増などによる人件費 6.8%増

三島町サービスステーション（ガソリンスタンド）整備、ケーブルテレビ放送設備更新、食鳥処理施設整備が令和5年度で完了したため、令和6年度は普通建設事業費が大幅に減少しました。

また、土地開発基金積立金、減債基金積立金の皆減などにより積立金が63.3%減となりました。一方で、人事院勧告に伴う給与の増額などにより人件費は6.8%の増、繰り上げ償還による公債費30.5%の増、豪雪による影響で除雪費が増加したことなどにより維持補修費が49.4%増となりました。

経常収支比率の上昇、実質公債費比率の上昇をふまえ、財政状況の悪化を抑えるために、特定財源のない経費の抑制はもちろん、計画されている建設事業等について不断の見直しを行い、起債借入額を低く抑えていくことが必須です。



スターウォッチングツアー 2025 ミサカノヨゾラ

9月20日に美坂高原において「スターウォッチングツアー2025〜ミサカノヨゾラ〜」が開催され、約250人の方が来場されました。

マルシェでは、町内外の美味しい食べ物や加工品などが出店されました。アウトドア体験コーナーでは、アウトドアグッズの展示のほか、ピザ焼き体験も行われました。

チキンの着ぐるみを着ての、「美坂高原チキンレース」は大白熱し、星座ランタンづくりワークショップでは、美しいランタンを制作出来て、参加者は喜んでおりました。

夜は、雨が降るなかではありましたが、会津美里町出身の山浦雅也さんとクアチュール・ベールの皆さんによるスターライトコンサートが行われ、サクソフォーンの美しい音色が来場者を魅了していました。渡部潤一先生による美しい天体写真の説明会が行われ、集まったお客さんは熱心に説明を聴いていました。また、プログラムを一部変更し、猪俣慎吾先生の星写真の現像・レタッチ講座では、時間を延長して開催され、次々と質問がでておりました。

今回は美しい星空を見ることは出来ませんでしたが、参加者は、それぞれにイベントを楽しまれました。

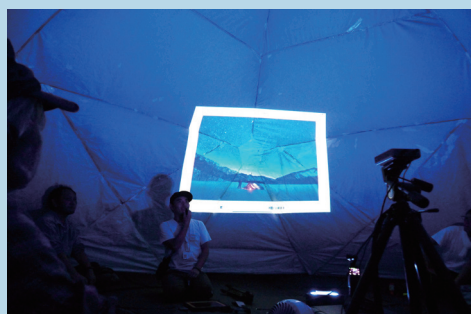
夜の部



◀ 雨の降った夜のマルシェ



◀ 「クアチュール・ベール」によるスターライトコンサート



◀ 猪俣慎吾先生による星景写真撮影講習会



◀ 渡部潤一先生による天体講演会

昼の部



◀ マルシェの様子



◀ ピザ焼き体験



◀ 美坂高原チキンレース



◀ ランタンづくり

皆様のご長寿を祝って

三島町敬老会は9月4日、町民センターで開催され、町内の満75歳以上の方492名を招待し、当日は147名の方が参加されました。

結婚50年の金婚夫婦2組が福島民報社から表彰され、会津坂下支局長より表彰状が手渡されました。

また、88歳の米寿を迎える方16名、99歳の白寿を迎える方4名が表彰されました。矢澤源成町長の挨拶に続き、二瓶俊浩議会議長と飯塚国英町老人クラブ連合会会長が祝辞を述べられました。

式典の後の演芸会では、三島保育所の子どもたちの演技や三島町役場職員によるダンス、そして三遊亭円福さんの落語などを鑑賞し、楽しいひと時を過ごしました。

白寿を迎えられた方

(昭和元年生まれの99歳)

黒田 常志 様(宮下)
長郷 マサ子 様(間方)
二瓶 宗一郎 様(西方)
(故)渡部 喜代志 様(高清水)

米寿を迎えられた皆さま

(昭和12年生まれの88歳)

地区	氏名
宮下	浅井清一 様
宮下	小林洋子 様
桑原	寺川善正 様
桑原	阿部タケ子 様
大谷	鈴木美子 様
大谷	五十嵐住江 様
西方	小柴一郎 様
西方	坂内澄男 様
西方	飯塚ミトリ 様
西方	小柴洋子 様
大石田	渡部洋子 様
大石田	渡部肇 様
大石田	五十嵐喜勢子 様
名入	二瓶政一 様
名入	稲洋子 様
早戸	五十嵐絹子 様

結婚50年を迎えられた方

(結婚年月日順)

地区	氏名
大谷	五十嵐 富一・イセ子 夫妻
浅岐	角田 憲一・久子 夫妻



▲ しあわせ金婚夫婦の表彰を受ける五十嵐夫妻(左)、角田夫妻(右)



▲ 飯塚国英三島町老人クラブ連合会長による謝辞

演芸プログラム



▲ 三遊亭円福さんによる落語



▲ 役場職員による「ダンシング・ヒーロー」



▲ 三島保育所によるおゆうぎ「ぼよん行進曲」

教育 台湾

台湾雲林県立樟湖生態国民中小学校視察

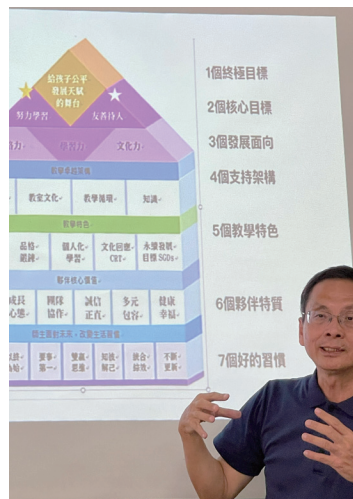


▲ 学校全体イメージ

三島町では、教育理念である「ふるさとと自分に誇りが持てる人づくり」に基づき教育の推進、地方創生や人口減少・少子化対策に取り組んでおり、その一環として、8月27日に台湾雲林県の樟湖生態国民中小学校を視察しました。

本視察で、国際交流やキャリア教育の観点から教育の方向性や目標を共有し、今後の交流の可能性や課題についての意見交換などにより、両地域の教育の質向上並びに地域活性化を目的に実施しました。

同校が所在する樟湖地域は少子高齢化や人口減少が進む一方、同校は実験教育校として特色ある取組を展開し、2006年には24名まで減少した児童・生徒数が現在は160名にまで増加しています。全寮制による9年間一貫教育のもと、学力向上だけでなく、文化継承や社会性の育成に力を入れている点が特徴です。



▲ 教育理念を説明する陳校長



▲ 意見交換会の様子

特徴的な教育プログラムとしては、途絶えていた竹紙づくりを授業に取り入れた伝統文化の継承や、課題解決型学習（PBL）の導入が挙げられます。生徒自ら課題を設定し解決を図る学習法により、地域特産物を活用した商品開発や5日間で500キロメートルを自転車走破するといった挑戦的活動を経験し、問題解決力や協働性を養っています。

また、地域や企業との連携も盛んで、社会奉仕活動や企業寄附による教育支援が成果を支えています。さらに、国際教育を重視し、日本を含む各国との交流を進め、児童・生徒に広い視野を持たせている点も大きな特色です。



▲ 竹をハンマーで叩いて繊維状にして竹紙づくり

教育理念は「誰にも天賦の才能があり、それを発揮する舞台を与える」という考えに基づき、学習力・品格力・文化力の育成を重視しています。

また、教師の資質向上を重視し、大学等との連携による研修や自己成長の支援を行うことで、教育の質の向上につなげていることも印象的でした。

今回の視察を通じ、少子化や人口減少に直面する本町にとっても、PBLや地域課題解決型の教育など参考となる点が多く見られました。今後はオンラインや現地交流の可能性を検討しつつ、小中一貫教育の導入の中で国際教育を体系的に組み入れることで、児童・生徒の主体性を伸ばし、地域社会と結びつく学びの実現を目指してまいります。

交流 ものづくり

国立台湾工芸研究発展センター クラフトイベント出展

～「台湾工芸集（Taiwan Craft Gathering）」への参加～

令和7年8月29日～8月31日の3日間、三島町と交流協定を結んでいる国立台湾工芸研究発展センター（以下、工芸センター）が主催する工芸品の展示販売イベント「台湾工芸集」へ出展しました。開催場所は、台湾の東方、宜蘭県にある「国立伝統芸術センター」（以下芸術センター）です。展示販売を中心に、工芸交流昼食会、ものづくり体験、実演、国際交流座談会へ参加しました。

展示販売と工芸交流昼食会

編み組細工、会津桐タンス製品の展示販売を行いました。日本から持ってきた見慣れない素材は多くの方の目を引きました。また「工芸交流昼食会」という催しのなかでは、商品説明の機会をいただき、お茶を習慣的に入れて飲む文化がある台湾では、特に桐箆箆の技術を活用した茶筒、「茶綾」の緻密な仕上げに感嘆の声が上がりました。

体験および実演

体験はヒロキーホールダークリを實施し、三日間で29名の方が参加されました。言葉は通じませんが、身振り手振りで説明をすると、どなたも最後まで完成させることが出き、「ものづくり」の言葉を紹介さないコミュニケーションとしての可能性を見出すとともに、本体験を無事成功させる事ができました。



◀ 工芸交流昼食会での商品説明と販売の様子

◀ 台湾の人たちの関心を集めたものづくり体験

三島町をはじめ、各ものづくり組合の代表や、韓国からのゲストがそれぞれの活動について発表しました。三島町からは矢澤町長が、町の概要と生活工芸運動、アカデミー事業についての説明を行いました。質問時には、アカデミーの活動について質問が寄せられています。

「担当者コメント」

台湾の方は、「10人に1人が日本に行ったことがある」というくらいに日本への興味が高く、簡単な日本の単語が通じることが多いです。

今後、三島町を訪れる外国の方々との交流の中で「ものづくり」を言葉以外の新たなコミュニケーションツールとして活用することで、三島町の魅力を伝えていくことができると、今回の交流で実感できました。



▲ 三島町についての発表

国際交流座談会

優良防犯責任者表彰として阿部和彦さんが表彰されました

8月4日に会津坂下町中央公民館で開催された会津坂下地区防犯協会連合会定期総会の席上で阿部和彦さん（桧原）が、長年に渡り、三島町の防犯活動に貢献された事が、優良防犯連絡責任者として表彰され、石井弘敬会津坂下警察署長から表彰状が手渡されました。

また総会では、最近の犯罪の概況について警察署から報告があり、県内では、なりすまし詐欺が増加しており、令和6年は120件、4億円を超える被害額となっています。警察を名乗る事件が多く、被害者年齢が若くなっている傾向があります。また管内6町村では令和6年には93件の刑法犯が発生しています。

声を掛け合い、助け合い、皆さんで犯罪が発生のない町にしましょう。



▲ 石井弘敬会津坂下警察署長より表彰を受ける阿部さん

新三島駐在所の開所式が行われました

9月2日、新しくなった三島駐在所の開所を関係者が祝いました。三島駐在所は、1890年3月1日に西川村駐在所として誕生し、村や駐在所の合併により、1975年に宮下駐在所となり、1977年12月に現在の場所に移転しました。

築約50年が経過しており、建て替えに際しては町の景観に配慮した外観と、スロープや授乳室等を備えた新しい建物に生まれ変わりました。

式では、石井弘敬会津坂下警察署長、樽井貞盛三島駐在所長が挨拶し、関係者によりテープカットが行われました。



▲ 開所式でのテープカットの様子

「山の神感謝祭」を開催～三島町生活工芸運動友の会～

9月10日は「奥会津編み組細工」が経済産業省指定伝統的工芸品に認定された日です。

これにちなんで、三島町生活工芸運動友の会では毎年「山の神感謝祭」を開催しています。

材料をいただいている「山」をはじめとした自然の神々に「毎年材料を頂ける感謝」、「材料採取での無事への感謝」、「伝統文化を残せることへの感謝」など、編み組品に関わる様々な感謝の意を込めて実施しました。

生活工芸運動友の会五十嵐三美会長からは、「最近では、綺麗な作品が多いが、三島町の編み組細工は、縄文から続く、力強さが魅力であり、その力強さを大切に、編み組工芸を伝承していただきたい」とのお話があり、三島町の編み組細工にける想いを、参加者一同が改めて考える機会になりました。



燃やせるごみの展開検査実施

まだまだ減らせる！ 紙ごみ・生ごみ

9月11日に会津若松地方広域市町村圏整備組合環境センターと合同で、皆様が普段出している燃えるごみの一部を取り出し、その内容物を調査しました。20kgほどの調査でしたが、燃えるごみの出し方について傾向がわかりました。



▲ 環境センターで行われた展開検査の様子

種 別	重 さ	割 合	※の項目は、右記全体平均に比べ、減量の努力が必要です。	参考 :R6 年度組合 全体の検査結果
① リサイクル可能な紙類（段ボール、新聞・チラシ、雑誌・包装紙、空き箱・飲料容器等）	3.9 kg	※ 19.2 %		13.0 %
② リサイクル可能な衣類	0.6 kg	3.0 %		0.5 %
③ リサイクル可能な容器包装類（プラスチック、ペットボトル、びん等）	1.7 kg	8.4 %		14.1 %
④ 木・竹・わら	0.0 kg	0.0 %		2.6 %
⑤ 厨芥類（生ごみ）	6.6 kg	32.5 %		51.6 %
⑥ その他のごみ （上記以外のもの。ティッシュ・キッチンペーパー、紙おむつ、ゴム皮類、その他のプラスチック製品、燃やせるごみ以外のものなど）	7.5 kg	※ 36.9 %		18.2 %
計	20.3 kg	100 %		100 %

上の表から、傾向として紙類の分別と生ごみの減量の余地があることがわかりました。環境センターの所見として「紙類やプラスチック類をひとまとめにしているのに、燃やせるごみに出してしまっている。せっかく分けていただいたのでぜひ資源物に出してほしい」「食品を未開封のまま廃棄しているものが目立った」とありました。町ではさらに分別が進むようにリサイクルボックスの設置やキエーロ、コンポストの設置を推進していきますので、引き続きごみの分別をお願いいたします。



▲ 未開封のままの食品類 フードロス削減のため、食べられる分だけ購入しましょう。



▲ チラシなどはまとめて、燃えるごみではなく、資源ごみに出しましょう。

「台湾工芸ツアー」を生活工芸館にて開催～総勢 15 名が来館～

9月15日～20日、台湾の大学院生や先生、小学校の先生など総勢15名が三島町に来町され、生活工芸館が提供するヒロロ細工のものづくり体験を受講されました。

ヒロロ採取の説明から始まり、縄ないや矢羽根編みなどを経て、「ポーチ」を完成させました。滞在中は町内の店舗や観光地も散策され、三島町を満喫していただきました。



▲ 役場庁舎前での記念撮影



第33回両沼西部三町村小学校 体育交流会陸上記録会について

9月17日、金山町のかねやま小学校において、三島町、金山町、昭和村の小学5・6年生による陸上記録会が行われました。

あいにくの雨模様で濡れたグラウンドでしたが、参加児童はそれぞれ練習してきた成果を発揮し、各種競技で頑張っていました。

最後に行われた4×100m混合リレーでは、走者は持てる力の限り走り抜け、三島小Aチーム、Bチーム共に1位という結果を勝ち取りました。



星空教室（渡部潤一先生講演会）の開催

9月19日、町民センター大ホールにて「ミサカノヨゾラ」等のイベントでお世話になっている、渡部潤一先生（国立天文台天文情報センター長・上席教授）による、「宇宙への挑戦」という演題の講演会が開かれました。

広大な宇宙の、美しさ、魅力、不可思議さについて様々な話を聞いた三島小・中学校の生徒からは、沢山の質問が上がり、渡部先生も驚かされていました。

東北地方で初の星空保護区を目指す三島町の将来を担う子どもたちが、これほどまでに星空への関心を持っていることが大変感動的でした。



▲次々と質問の手が上がる子どもたちと、三島小児童手作りの星グッズをプレゼントされる渡部先生

「三島町の環境のこれからを考える」 ～国環研ワークショップ～

9月11日、三島町町民センター視聴覚室において、国立環境研究所と地域政策課の共催による、三島町の環境のこれからを考えるワークショップが実施されました。

昔と今の三島町の森林環境について自由に意見を出し合い、そこから未来に向けて、どのような取組をしていったらいいのかを考え意見を交わしました。

環境問題に限らず、様々な意見が出ることで、参加者は昔を懐かしむとともに、未来について具体的な意見を出していました。



第19回市町村対抗県軟式野球大会が行われました

9月14日、市町村対抗軟式野球大会が、小野町の小野あぶくま球場で開催され、天栄村を相手に、接戦が繰り広げられました。

序盤、三島町チームは4点を先制しましたが、天栄村チームも必死に追いつがり同点に。

三島町チームはホームランで再びリードしましたが、また同点に追いつかれ、ついに延長タイブレークへ。8回表、先攻の天栄村チームに2点を勝ち越され、三島町チームも8回裏に2死満塁と攻め立てましたが、あと1本が出ず、5対7で惜敗しました。

好天の中、非常に白熱した試合となり、終了後は両チームとも健闘を讃え合っていました。

出場された選手の皆さん、大会のみならず、仕事終わりや休日のこれまでの練習も含めて、本当にお疲れ様でした。



▲ タイムリー2塁打を放つ青木武彦選手



▲ 健闘した三島町チームの選手

奥会津フェス 2025

9月14日、美坂高原において、奥会津フェス実行委員会・只見川電源流域振興協議会主催による、奥会津フェスが開催されました。

曇り空の、過ごし易い気候の下、5組の出演者、17店舗の食品と、4店舗の工芸・物産の出店者が、集まったお客をもてなしました。ライブを楽しむお客さんは、県外からいらしたお客様もあり、美坂高原とライブ鑑賞をおおいに楽しみ、最後はアンコールに応え、出演したアーティスト全員がステージに上がり、出演者の1組「D-51」さんの代表曲「NO MORE CRY」を歌い、幕を閉じました。



▲ 出演者全員で「NO MORE CRY」を熱唱

【西方】「秋の人足」なくては、ならぬ（9月7日）

本名 与四郎さん

9月7日の午前8時から11時30分頃を目安に西方地区において「秋の人足」が行われました。

今夏は、全国的に猛暑による熱中症や日本だけでなく海外でも地球規模の温暖化による自然災害で多くの尊い人命が失われたり、甚大な家屋の損壊がテレビ、新聞等報道されたりしましたが、西方地区においては大きな被害は報告されていないということでした。

当日は早朝から太陽が雲の間から顔を覗かせ、暑過ぎるくらいとなり、作業の途中途中で水分補給が欠かせませんでした。14隣組がそれぞれの分担された箇所に分かれて作業を開始しました。普段あまり通ることがほとんどなくなった農道や林道の雑草は、暑さの影響もあり、大人の腰元ほどに伸びきっていました。

どの隣組でも、草刈り機のエンジン音が各箇所でも鳴り響いていました。草刈り作業の移動途中には、人家の裏の畑に熊が連日にわたり出没し、足跡がくっきりと残されていました。また、休憩の合間に、松茸は森林伐採による環境の変化にとても敏感で生育しない話や宮下の荒屋敷地区で出土された土器などのほかに、縄文当時の稲束が実在していたものの、写真等のデータが残っていないことの話、銭森長者跡の周辺で多くの土器、副葬品である土偶がほとんどそのままの形で出土し、土偶の作られた由来の話など古代ロマンにタイムスリップすることができました。多種多様な町や町外情報を多く聞くことができました。

秋の人足によって、地域の環境美化だけでなく、地区民の心の交流や情報交換を深めることができた半日となりました。



「人足は 心の交流 人を知る」

「村道に 歴史を感じ

地区を知り 古代ロマンに

思いをはせる」

【早戸】早戸温泉遊歩道整備実習が行われる（9月11日～15日）

橋本 光五郎さん

今年で16年目となる東北芸術工科大学建築・環境デザイン学科の「早戸温泉遊歩道整備実習」が、9月11日から9月15日までの4泊5日で実施されました。

この活動は、東北芸術工科大学と佐久間建設工業、早戸地区の三者が協力して行っている活動で、三島町からは「早戸地区の景観・環境整備事業」として「地区支援事業補助金」の支援も受けて実施しています。

今年度は、早戸温泉入口の「旧盛川屋」跡地から遊歩道を結ぶルート of 整備を目標に活動を行いました。時間と天候の関係でルート全てを整備することはできませんでしたが、学生さん達が頑張ってくださり「旧盛川屋」側の入り口の石垣と階段、遊歩道側の入り口となる部分への階段設置、そして最大斜度が45度近くあった難所に階段とデッキを整備することができました。残された部分は、次年度以降の活動に引き継がれていきます。

まだ歩き難い箇所が残されていますが、遊歩道を訪れる機会がありましたら歩いていただけたらと思います。



なお、活動の様子は「遊歩道から早戸を元気にする会」のInstagramにアップしていますので、お時間がある時に見て頂ければ幸いです。Instagramをご利用の方は、右記のQRコードからアクセスできます。



【滝原】二百十日のおこもり（8月31日）

佐久間 絹江さん

立春から数えて二百十日目の8月31日、駒形神社では、宮司に足を運んで頂き、ご祈祷して頂きました。

田畑の収穫を迎える大事な時期に台風や大雨による被害が多発しないよう、無事に実り多い秋を迎えられますよう、心を込めて祈り、神前にて御神酒を酌み交わしました。



【間方】歩く県道美女峠の草刈り行われる（9月6日～7日）

菅家 壽一さん

9月6日・7日の両日、間方から昭和村へ通じる美女峠（県道小林～宮下停車場線）において草刈り作業が行われました。

この作業は、道路の管理者である県から町に委託された事業を、地区が主体となって実施しているものです。今回は高姫清水までの約5kmの区間を、地区の8名が参加して作業しました。参加者は慣れた手つきで刈払い機を操作し、道を覆っていた雑草が次々に刈り取られていきました。

只見川沿いの道路や鉄道が整備される以前は、銀山街道（会津若松～銀山峠～石神峠～美女峠～吉尾峠～只見町）が主要な交通路であり、間方と野尻の間では美女峠を通じて仕事や生活の交流も盛んに行われていました。

県では、現時点で自動車道の整備が困難であることから、「歩く県道」として草刈りや道普請を行い、歴史と伝説を持つ美女峠の活用を推進しています。

江戸時代に巡見使に随行し美女峠を越えた古松軒は、「この楓は^{こしょうけん}竜田（奈良）^{たつた}や高雄（京都）よりも素晴らしい」と記しています。間方側の峠道は緩やかな勾配で道幅も広く、並んでおしゃべりしながら歩ける点が魅力です。

なお、11月9日には、紅葉に彩られた楓の中を歩く「高姫清水往復トレッキング」が、かしゃ猫クラブ主催で開催されます。皆さまのご参加をお待ちしております。



【桧原】「桧原健康を守る会」研修旅行（9月7日）

阿部 和彦さん

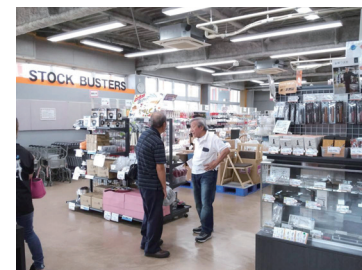
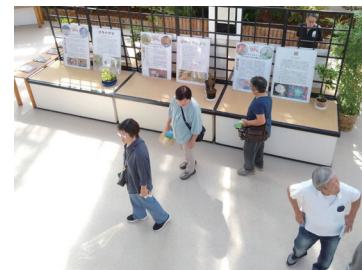
桧原健康を守る会は毎年9月の第1日曜日に研修旅行を行っています。今年は新潟県新潟市・燕三条市・阿賀野市を中心に19名で出かけて来ました。

最初は「新潟県立植物園」で日本最大規模の熱帯植物ドーム約550種4000株の植物と企画展「日本昔ばなし」に関する植物展を見学しました。次に三条燕市の名産品である金物を展示格安販売している「ストックバスターズ」で調理用具の刃物やフライパン、便利品の米研ぎ棒、ビアタンブラー等を買いました。

昼食は「新潟ふるさと村」のフードコートで地元の名物料理「たれかつ」・「海鮮丼」・「へぎ蕎麦」を味わい、店内でお土産や家族へのお買い物を満喫しました。

最後に、安田ヨーグルトの工場直営ショップ「Y&Y ガーデン」に立ち寄り帰路へとつきました。

参加者の皆さんは植物の謙げ区や新潟名物の食事やお買い物など、盛り沢山で楽しい旅行でした。



【桧原】秋の春日神社例大祭とおこもり（9月14日）

阿部 和彦さん

桧原の春日神社例大祭祭典奉仕が神社本殿において、午前10時から神社総代、地区役員、地区住民10名の出席で斉行されました。

前日と早朝から神社総代により参道周辺の草刈りや本殿の清掃が行われ、境内に祭りの旗が挙げられました。

青木則勝宮司による祭典が厳粛に執り行われ、阿部通利総代長と氏子代表の区長代理が玉串奉奠後に地区の繁栄、五穀豊穰、健康と安全を祈願しました。

その後、直会の前に青木宮司より玉串奉奠の作法や秋祭りの歴史について有り難いお話がありました。午後7時からの「おこもり」は6名の参加で実施され、この夏の厳しい暑さや雷雨、農作物の出来具合、昔の出来事等の話題に花が咲きました。



「私たちのたからもの」～母校に贈る黒板アート～

9月25日、三島小学校に、卒業生の本名円佳さんにより黒板アートが贈られました。

秋田の美術大学でコミュニケーションデザインを専攻する本名さんは、先日実施された「二十歳を祝う会」において、三島町のために、アートを通じて何かをしてみたいという想いを語られました。

そこで、自身の得意分野である絵と、西会津の芸術村で黒板アートを描いた経験を基に、JR第一只見川橋梁、かしや猫、桐子など、三島町らしいモチーフを黒板に描いてくださいました。6時間×5日で、計30時間もの時間を費やした大作です。

画材は、普通の学校で使用するチョークに自身で用意されたパステルを足し、明るい色味の、かわいらしい画風の作品になりました。



▲ 黒板アート「私たちのたからもの」（本名円佳さん制作）

▲ 本名円佳さん

若い人の少ない三島町ですが、こうして三島町で育った若い世代が、ふるさとに戻ってふるさとのために何かを残すというのは、なんとも嬉しいものです。

本名さんは、これからも機会があれば三島町のために、専門であるアートを活かし関わっていききたいと、熱い気持ちを語っておられました。

本名さんに限らず、これからも、三島町の若い世代の方が町のために何かを残してくれることで、町に新しい風が吹くことをどこか期待してしまう活動でした。

【宮下】三島神社祭礼～神輿渡御、こどもみこし、山車巡～（9月13日）

小島 純さん

宮下地区の三島神社御祭礼が9月13日に行われました。

当日、天候悪化が心配されましたが、午前11時より三島神社社殿において厳かに例大祭が厳かに執り行われ、秋まつりが始まりました。

御神輿が神社を出発。山車を先頭に町内を巡行し、町内2ヶ所において神事が行われ、五穀豊穰や町内安全が祈願されました。

先導する山車には、この日のために毎晩神社に集まり、太鼓、笛などの練習を重ねてきた、保育所から高校生までの子ども達が乗り込み、その成果を町の方々に披露しました。

午後1時30分からは子どもみこしが神社を出発し、山車を先頭に町内を巡行し、各所において「わっしょい!、わっしょい!」と大きく元気な声が響き渡りました。

夜6時30分からは山車で太鼓や笛を鳴らしながら、夜の行事の周知を図って町内を練り歩きました。

山車が活性化センター広場に到着すると、「商品付仮装豊年踊り」が始まり、集まった方々は、楽しく踊りの輪に加わっていました。また、それぞれに趣向を凝らした個人、団体の仮装が参加し、踊り会場は楽しい雰囲気になりました

次第に秋の気配が深まる中、楽しい秋まつりの1日でした。



【西方】子ども神輿と豊年踊りで地区元気！（9月13日）

本名 与四郎さん

9月13日の例年行われている西方地区の「子ども神輿」は早朝から雨模様のあいにくの天候でしたが、子ども御輿の出発時刻の午前10時頃には曇り空となり予定通り行うことができました。

地区の小学生が一人もいないために、子ども御輿に携わってこられたOBの子ども御輿組の皆さんが2週間前からふるさとセンターに夜、集合し、神輿につける花飾りを色とりどりに作ったり、豊年踊りの笛や太鼓などの練習をしたりして当日を迎えたということでした。

子ども神輿は旧児童館近くの郷倉から加登屋さんまでの直線の道のりを「ワッショイ、ワッショイ」とお祭りがあると聞いて集まった地区の小さなお孫さん達も参加しました。お父さんやお母さんと一緒に大きなかけ声に合わせて練り歩きました。また、大学生で今年、町の成人式にも出席した、二瓶宗悟さんも大きな団扇を勢いよく振ったり、小さな子どもたちを誘導したりして、子ども御輿を盛り上げました。

夜、午後7時30分になると五穀豊穰を願い「豊年踊り」も開催されました。今年も趣向を凝らした団体の仮装や個人による仮装が多く出場し、会場は楽しい雰囲気に包まれました。子ども神輿と豊年踊りで地区民に元気と笑顔と喜びを与えた初秋の一日となりました。



「子ども御輿 やらなきやだめよ 地区元気」

「仮装して 今夜はヒロイン 変シ～ン！」

【滝原】駒形神社例祭（9月14日）

佐久間 絹江さん

早朝7時より境内の清掃を行い、10時より地区の方々が参集して、神前にて今までの無事とこれからの家内安全、五穀豊穰を願い、祈りを捧げました。

さらに11時からは飲食を共にしながらゲームを楽しみました。

当初は戸外でのグランドゴルフを予定していましたが、悪天候のため、林業センター内で輪投げを行い、久しぶりのゲームに、賑やかな笑い声が響きました。



「色の濃い野菜」 食べていますか？

vol.103

健康で元気な毎日！

町民課保健福祉係 ☎ 48-5565

8月上旬に開催された健診結果説明会では、参加された皆さんから「トマト1個（150g）で1日分の緑黄色野菜（色の濃い野菜）になるの？意外と少ない！」という驚きの声が聞かれました。



夏は畑で作ったトマトやピーマン、オクラなどを収穫し、豊富に食べることができた緑黄色野菜。秋から冬は「畑で収穫できないから緑黄色野菜をあまり食べていない」というお話をよく聞きます。緑黄色野菜は“ビタミンA”“ビタミンC”“ビタミンE”という栄養素を豊富に含みます。これらは、たんぱく質（卵、乳製品、肉、魚、大豆製品）を皆さんの身体に作り変えるために欠かせないとても重要な栄養素。丈夫な血管を作ってくれるのも、緑黄色野菜です。動脈硬化を防ぎ、大病をせず毎日元気に過ごすために、意識して緑黄色野菜を摂り入れましょう！

図書のご案内

町民センターゆめぽけっと

10月24日⑤に「あづま号」がやってきます。
あづま号から図書を借りて返却がまだの方は10月19日④までに返却してください。
問 公民館 ☎ (48) 5599

●今月のおすすめ

2030-2040年 医療の真実

熊谷 頼佳 著

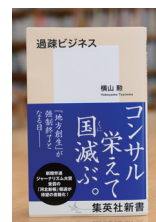


高齢者医療を支えてきた中規模病院が、次々に破綻している。コロコロと変わる厚労省の政策に翻弄され、著者の病院も一時は破綻寸前まで追い込まれた。本書は、高齢化した下町の病院長だからこそ見える医療制度の過酷な実態を明らかにし、この国の医療と介護をダメにした原因を指摘。日本の医療崩壊を大胆に予測する。あと5年で行き場のないお年寄りが街に溢れることになる。地獄を回避したいなら、いまが最後のチャンスだ。

●図書の紹介

過疎ビジネス

横山 勲 著



介護未満の父に起きたこと

ジェーン・スー 著



舟を編む

三浦 しをん 著



マイクラフト などの日記

ムア・ラファティ 著



地域おこし協力隊 活動誌

クマの冤罪!? 真犯人は誰?

鈴木 亮

皆さん、こんにちは。鳥獣対策専門員の鈴木です。早いもので私が三島町で働くようになり丸2年が経ちました。この2年間に町内の鳥獣情勢は驚くほど変化していますが、今後どう変化していくのか不安もありますが、残り1年間の任期も全力を尽くす所存です。

話題は変わりますが、最近面白い現場があったので、皆さんに紹介したいと思います。

ドングリの被害はクマの仕業か？

「道路にドングリが大量に落ちていて」と連絡を受け現場を確認したところ、確かに道路には大量のドングリが落ちていて、木の枝も2、3本折れています。犯人はドングリを食べに来たクマかと思ったのですが、それにしてはドングリが食べられずに残っていることが気になりました。よく見ると落ちているのはドングリと葉が付いた枝の先端部分ばかりで、どの枝にも刃物で「チョッキリ」切ったような跡がついています。また、木の幹にもクマが登ったような爪痕がなく、いよいよクマの仕業が怪しくなってきました。



道路に落ちた大量のドングリ。
クマを疑いたくなるが…。



鮮やかな切り口！
これはクマの手口ではない。



犯人の正体は？

調べたところ犯人は「ハイロチョッキリ」という小さな虫だとわかりました。この虫はドングリの卵を産み付けて枝を切り落とす習性を持っています。枝が折れたのは虫の仕業ではありませんが、センサーカメラを取り付けて数日間観察したところクマが来る様子がなく、何らかの自然現象で折れたと思われました。

このようにして今回はクマの冤罪？を防ぐことができました。

自分が警察官だったところ、鑑識の方から「物は嘘をつかない」と教えられたことがあります。生き物が残す痕跡にも同じことが言えると改めて思いました。鳥獣被害対策において、痕跡から生き物を特定することはとても重要です。パッと見の先入観にとらわれることなく、現場での観察を大切にしていきたいと思っています。



写真：PhotoAC

これがハイロチョッキリ。
長い口でドングリに穴を開ける。



国環研だより 第 86 回

「学んで楽しい！三島町×国環研の環境教室」

三島町のみなさま、こんにちは。今回は8月23日に三島町と国立環境研究所との共催で行われた環境教室「ふしぎ発見！わくわく体験」についてレポートいたします。

環境教室は三島町町民センター大ホールで行われ、国環研からは環境について楽しく学ぶことができる様々なコンテンツを用意し、三島町の子どもたち8名、付き添いの大人4名に体験してもらいました。昨年の町文化祭でも展示した3Dふくしまのほかに、新たに「田んぼダム模型」と「適応すごろく」というコンテンツを用意しましたので今回はそちらをご紹介します。

「田んぼダム模型」は、水田を活用した水害対策である「田んぼダム」の仕組みを模型で学ぶプログラムです。(田んぼダムについて詳しく知りたい方はこちら「田んぼダムで洪水を防ぐ？」<https://www.nies.go.jp/fukushima/magazine/oshiete/202208.html>)

上流に田んぼ、下流に街並みを模した模型の上から雨に見立てた水を流すと、普通の田んぼでは降った雨が田んぼからそのまま流れでて川があふれてしまうのに対し、田んぼダムの装置を入れた田んぼでは、流れでる水の量を調節することで一時的に田んぼ内に水を貯めることで川へ流れる水を減らし、洪水を防ぎやすことができます。

模型に実際に水を流すことで、直感的に子どもたちは洪水の様子を学ぶことができました。田んぼがお米を作る場所だけでなく、洪水対策の役割もあることを学べたのではないのでしょうか。



▲3D ふくしまの展示（左）と田んぼダム模型に水を流している様子（右）

また高学年向けとして体験してもらった「適応すごろく」は、国立環境研究所の気候変動適応センターというところがつくったゲームで、地球温暖化を進めないようにCO₂（二酸化炭素）の排出を抑えながら、温暖化によって起こる様々な影響に適応することをすごろく形式で学ぶものです。サイコロをふってゴールを目指しながら、どんなことでCO₂の排出が増えてしまう（もしくは減らせる）のか、どういった適応策があるのかを知ることができます。また、プレイヤーの行動によって、ゲーム世界での気温上昇が1.5℃になるのか4℃になるのかが分かりますので、どういう世界を目指すのか、プレイヤー同士の協力や駆け引きがあるのもこのゲームの面白いところかもしれません。

今回は5年生2人と大人2人のチームとなりまして、序盤はスゴい勢いでCO₂が増えましたが、チームの協力もあって少しずつ減らすことができ、無事1.5℃の世界に入ることができました。チーム内でも色々とお話をしながら進められ、盛り上がったゲームとなりました。

ほかにも環境に関する〇×クイズをしたり、3D ふくしまのプロジェクションマッピングでも使っている仕組みを体験できるミニプロジェクターというペーパークラフトをつくってもらったりと、みなさんには我々が用意したコンテンツをたくさん体験してもらいました。



これからも国立環境研究所福島拠点では子どもから大人まで、環境についてわかりやすく学べるようなコンテンツを作り続けていきますので、三島町のみなさんにまたお見せできればと思っています。

筆者 **とぎわ たつひこ**
常盤 達彦

●国立環境研究所福島地域協働研究拠点
地域環境創生研究室 ☎ 0247 (61) 6572

町史編さん室だより

第117回

「地方財政調整交付金」切望の意見書

議案第一二号

地方財政調整交付金制度確立促進ニ関スル意見書提出ノ件

地方財政調整交付金制度確立促進ニ関シ左記意見書ヲ関係大臣ニ提出スルモノトス

昭和十年三月二日 提出

西川村外二ヶ村組合会議長 渡部楨二

左記

意見書

地方財政調整交付金制度ヲ速ニ設定セラレントコトヲ望ム

理由

近時町村財政ハ法令其ノ他ニ依ル義務負担ノ増嵩ト財源ノ枯渇トニ依リ殆ト經理不能ニ陥リ今や寔ニ憂フベキ情勢ヲ以テ推移スルノ止ムナキ状態ニ在リ之ヲ匡救シ国民負担ノ不均衡ヲ是正スルハ当ニ刻下当面ノ喫緊要務タリ、政府ハ宜シク地方自治体ノ財力ト税源分布ノ実情ニ鑑ミ速ニ地方財政調整交付金制度ヲ実施セラレントコトヲ切望ス

昭和十年三月二日

西川村

福島県大沼郡 原谷村 組合会議長渡部楨二

内閣総理大臣 岡田啓介 殿

内務大臣 後藤文夫 殿

大蔵大臣 高橋是清 殿

各通

近年の三島町における歳入のうち、財源として最も多いのは地方交付税となります。この地方交付税の制度は昭和29年（1954）からのもので、その前身といえる地方財政平衡交付金（昭和25年（1950）に、その前身ともいえる地方配付税は昭和15年（1940）に成立しました。

今回紹介する資料は、地方配付税成立から5年前の昭和10年（1935）、西川村外二ヶ村組合会議長の渡部楨二氏が、都市と地方の経済的な不均衡を是正するため、地方財政調整交付金制度を速やかに実施することを望む意見書を、内閣総理・内務・大蔵各大臣宛に提出することを議会に諮った時のものです。経緯としては、まず昭和7年（1932）に内務省官僚により「地方財政調整交付金制度要綱」の案が発表され、昭和9年、10年の国会で衆議院から法案が提出、衆議院は通過したものの、大蔵省の反対意見等で貴族院では審議未了となりました。そういった背景のなかで、一地方自治体である組合村でも「意見書」という形で国に要望するに至ったと推察されます。

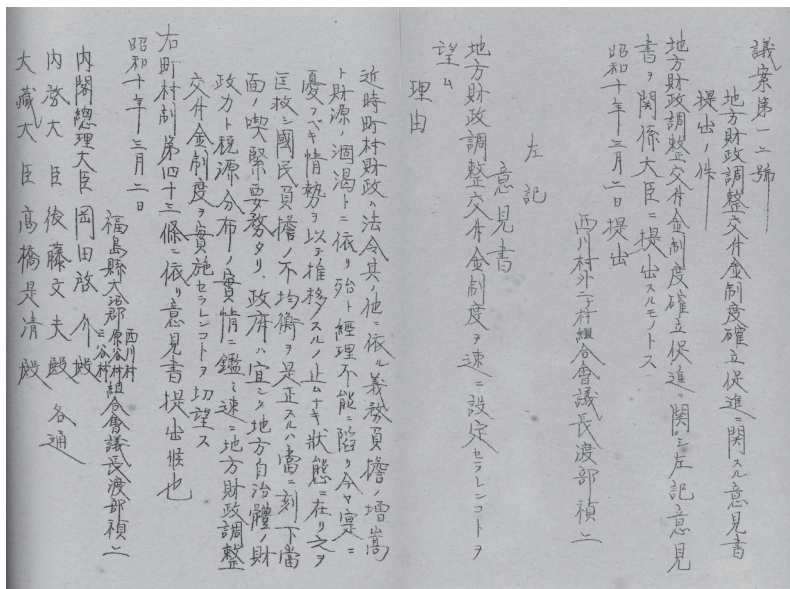
役場日誌を読むと、昭和11年4月9日、11月19日に本件についての協議のため、それぞれ坂下町、本郷町に吏員が出張、12月6日には福島県の地方課の吏員が本件の調査のため来村しています。

関連して、昭和12年の役場日誌には「地方財政補給金」についての打ち合わせ、事務指導会、そして財政監査執行についての記述があります。この補給金は農村救済のため、昭和11年度から臨時にはじまったもので、12年度には1億円規模の予算を計上し、道府県、市町村に交付されています。

参考文献 藤田武夫「日本における地方財政調整交付金の発達」

（町史編さん室）

※引用文の旧字は常用漢字に修正し、難読字にはルビを振っています。



▲地方財政調整交付金制度確立促進ニ関スル意見書提出ノ件

ご家庭に古い文書や写真などがございましたら、交流センター山びこへご連絡ください。

☎ 52 2165

愛 ば ん し ょ 外 来 か ら の お 知 ら せ

三島町ケーブルテレビ 三島通信で健康教室を放送中
です。
10月 は「慢性腎臓病について」です。
ぜひご覧ください
☎ 福島県立宮下病院 ☎ (52) 2321

町 か ら お 知 ら せ

ご寄附ありがとうございました (8月分)

ふるさと納税

中 島 登美江 様 (茨城県)

上 野 太 郎 様 (栃木県)

寄附件数 13 件 計 122,000 円

10 月 分 納 税 の ご 案 内

【納期限 10 月 31 日(金)】

▼ 町県民税 (普通徴収) (第 3 期)

▼ 後期高齢者保険料 (普通徴収) (第 3 期)

忘れずに納付してください。

☎ 町民課 町民係 ☎ (48) 5555

お悔み申し上げます

小 松 文 子 様 (96 才・西 方)

渡 部 喜代志 様 (99 才・高 清 水)

町の人口と世帯 (9 月 1 日現在)

人口	1,295	増減数	-11	出生	0
男	657		-5	死亡	3
女	638		-6	転入	0
世帯	664		-6	転出	8

※住民基本台帳による数値です。増減数は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月 1 カ月間に届出のあった人数です。

社 会 福 祉 協 議 会 よ り

大石田友遊サロン	ひまわりサロン 大登サロン
10 月 6 日⑧ 午前 10 時から 大石田集会所	10 月 17 日(金) 社会見学
桧原はつつクラブ	滝谷和楽塾 川井友愛サロン
10 月 7 日⑧ 社会見学	10 月 21 日⑧ 社会見学
浅岐あったかサロン 間方いきいきクラブ	西方ほがらかサロン
10 月 10 日(金) 社会見学	10 月 24 日(金) 午前 10 時から 森の校舎カタクリ
サロンないり 高清水いきいきサロン	桧原はつつクラブ
10 月 14 日⑧ 社会見学	11 月 4 日⑧ 午前 10 時から 桧原集会所
サロンなごみ	
10 月 16 日⑧ 午前 10 時から 西方ふるさとセンター	

◆ 心配ごと相談 ◆

10 月 29 日(水) 福祉センター

午前 9 時 30 分から午前 11 時 30 分まで

町社会福祉協議会へのご寄附
(ご遺志によるもの)

小 松 元 様 (西方)

渡 部 喜美子 様 (高清水)

☎ 社会福祉協議会 ☎ (52) 3344

愛 ば ん し ょ 外 来 か ら の お 知 ら せ

喘息について

宮下病院 内科 渡辺 綾

季節の変わり目で寒暖差が大きくなる時期になりました。長引く咳が気になる方は「喘息」に注意が必要です。喘息の特徴は、気温差や夜間～明け方に咳が悪化し、運動や会話などで咳が止まらなくなります。さらに悪化すると「ゼーゼー」とした喘鳴や息苦しさが見られ、呼吸がうまくできず重篤になることもあります。秋は喘息が悪化する季節であり、このような症状が気になる方は医療機関を受診し、適切な治療を受けましょう。

☎ 福島県立宮下病院 ☎ (52) 2321

消 防 署 か ら の お 知 ら せ

全国で水害、土砂災害が発生しています！

近年、水害や土砂災害の被害が、多く発生しております。2019 年 10 月に発生した「令和元年東日本台風」とその 2 週間後に発生した大雨により福島県も大きな被害を受けました。
自然災害から自分の命と大切な人の命を守るためいざというときに備えましょう！

■市区町村が出す警戒レベル3又は警戒レベル4(避難情報)で必ず避難しましょう
気象庁などから出る河川水位や雨の情報を参考に自主的に早めの避難をしましょう

避難情報等 (警戒レベル)			河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)	
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等	河川水位や雨の情報
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保	5 氾濫発生情報 大雨特別警報 (土砂災害)
~~~~~ <警戒レベル4までに必ず避難！> ~~~~~				
4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	4 氾濫危険情報 土砂災害警戒情報
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難	3 氾濫警戒情報 洪水警戒 大雨警報
2	気象状況悪化	自己の避難行動を確認	大雨・洪水注意	2 氾濫注意情報
1	気象状況悪化の恐れあり	災害への心構えを高める	早期注意情報	1

市区町村長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

☎ 会津坂下消防署 三島出張所  
☎ (52) 3032 / FAX (52) 3033

会 津 坂 下 警 察 署 か ら の お 知 ら せ

ニセ警察詐欺にご注意を！！

警察を名乗って電話をかけ、SNS に誘導するなどして「逮捕する」などと言って脅す、警察手帳や逮捕状を示すなどと、捜査等を名目にお金をだまし取る「ニセ警察詐欺」が多発しています。

・警察が、電話で捜査対象となってることを伝えることはありません。  
・SNS で、警察手帳や逮捕状の画像を送ったり、ビデオ通話をすることはありません。

犯人は、+ (プラス) から始まる国際電話番号を使用していることがあります。  
国際電話の発着信は、無償で休止できます。  
また、次のような電話番号の偽装も確認されています。  
・正規の警察署の電話番号  
・末尾が 0110

怪しい電話がかかってきたら、落ち着いて一旦切り、最寄りの警察署にご相談ください。

☎ 会津坂下警察署警務係 ☎ 0242 (83) 3451

自 衛 隊 員 の 募 集 に つ い て

自衛隊では、下記のとおり、高等工科学校生徒推薦受験及び一般受験により、新規隊員を募集しております。応募希望者は、下記の連絡先に、ご連絡ください。

募集職種	資 格	受付期間	試験期日	将来の展望
高等工科学校生徒	推薦 男子中卒 (見込含む) 17 歳未満の成績優秀かつ生徒会活動等に顕著な実績を修め、学校長が推薦できる者	令和 7 年 10 月 1 日～ 11 月 28 日	令和 8 年 1 月 10 日～ 12 日 ※いずれか 1 日を指定されます。	将来、陸上自衛隊において、高機能化・システム化された装備品を駆使・運用するとともに、国際社会においても対応できる自衛官となる者を養成します。 身分は、特別職国家公務員「生徒」で、中学校卒業等を対象とし、手当ての支給を受けながら高等学校教育等を受ける制度です。
	一般 男子中卒 (見込含む) 17 歳未満の者	令和 7 年 10 月 1 日～令和 8 年 1 月 15 日	1 次試験 令和 8 年 1 月 24 日・25 日 ※いずれか一日を指定されます。 2 次試験 令和 8 年 2 月 12 日～ 15 日 ※いずれか一日を指定されます。	

【問合せ先】自衛隊 福島地方協力本部会津若松出張所 ☎ 0242 (27) 6724



